

2012年から首都・ソウル特別市からの政府機能の移転先として機能しており、コンベンションセンターやグローバル企業が集まる韓国の最先端都市として注目を集めている。高麗大学校は、イギリスの調査機関QS(Q

前住3大名門大学として有名。横浜国立大と高麗大学校(世宗キャンパス)はともに行政機関やグローバル企業と連携しやすい都市に位置するという環境にあり、また豊富な英語のプログラムを有することから、今回の交換留学協定締結に至った。

広島大、東広島市長に客員教授辞令交付

広島大学は2月9日に東広島キャンパスの工学研究院長室で、客員教授辞令交付式を行い、佐野庸治大学院工学研究院長から藏田義雄東広島市長に辞令が手渡された。

辞令交付式後、平成18年4月の当選以来東広島キャンパスがある東広島市の市政を担う藏田市長による特別講義を実施。同市の魅力や、同市から世界に羽ばたく技術力の高い地元企業などを紹介し、東広島市の大学院生など約80人が受講した。



講義を行う藏田市長



藏田市長の特別講義に耳を傾ける学生ら



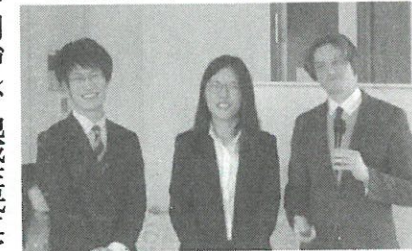
辞令を受ける藏田市長(左)と佐野工学研究院長(右)

この特別講義は、大学院共通授業科目の中で実施している「技術経営(MOT)教育」の授業の一環として実施された。広島大の学生は、「技術経営(MOT)教育」のなかで、大学で行われている研究や、日本の優れた技術を経営に活かし、イノベーションを起こせる人材となるよう、企業の技術戦略やイノベーション戦略を学ぶ一方で、地域の産業や地方創生における地域連携についても学習している。藏田市長は、「東広島には世界の中でもオンリーワンとなっている地元企業がたくさんある。学生の中に、大学だけでなく地元東広島でもいろいろな経験を積み、活躍してほしい」と講義の参加者に力強いメッセージを送った。

広島大で留学生による自助支援の企画発表会

広島大学ではこのほど東広島キャンパスの学生プラザで、短期交換留学プログラム(HUSA)の留学生による「グローバル・リーダーシップ・プロジェクト」大学と地域の協働し、留学生の自助支援」実践研究グループプロジェクト中間発表会を開催した。

初開催となる今回は、北米・南米・ヨーロッパ・オセアニア・アジアの15カ国30大学からの交換留学生39人の代表4グループが発表。HUSA担当の恒松直美広島国際センター准教授による英語と日本語の司会・進行のもと、自助支援プロジェクトの提案を行った。



発表するHUSAプログラム留学生



発表へのフィードバックを聞くHUSA交換留学生

留学生は、昨年10月にプロジェクトを開始し、地域住民にアンケート調査をするなどして、地域との連携を目指して進めている。今回は4グループが留学生による自助支援の企画発表を行った。発表会は、地域公開として開催され、地域企業や市議会からも参加を得るとともに、学内の教員・大学院生からも貴重なフィードバックがあった。企画を意義あるものにするための貴重な示唆を得るとともに、厳しい審査を受けることができた。現在、地域で開催される特有の文化行事の紹介、留学生に役立つ東広島市の病院の情報、自炊に役立つための調理法の紹介など、留学生生活に役立つ自助支援のプロジェクトが進行中。